

これからの学びをデザインする

協働学習が拓く、深い理解と創造性の世界



A guide for educators and instructional designers.

なぜ、今「協働学習」が求められるのか？

急激に変化する現代社会では、多様な人々と協調しながら複雑な問題を解決し、新しいアイデアを創造する力が不可欠です。

こうした力は、従来の個別学習だけでは育成が困難です。

“21世紀を生き抜くための力を育成するため、これからの学校は、基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、思考力 判断力 表現力等の育成や学習意欲の向上、多様な人間関係を結んでいく力の育成等を重視する必要がある。これらは、様々な言語活動や協働的な学習活動等を通じて効果的に育まれる...”

中央教育審議会（平成24年8月）答申



単なるグループワークを超えて：真の「協働学習」が育む力

よくある誤解



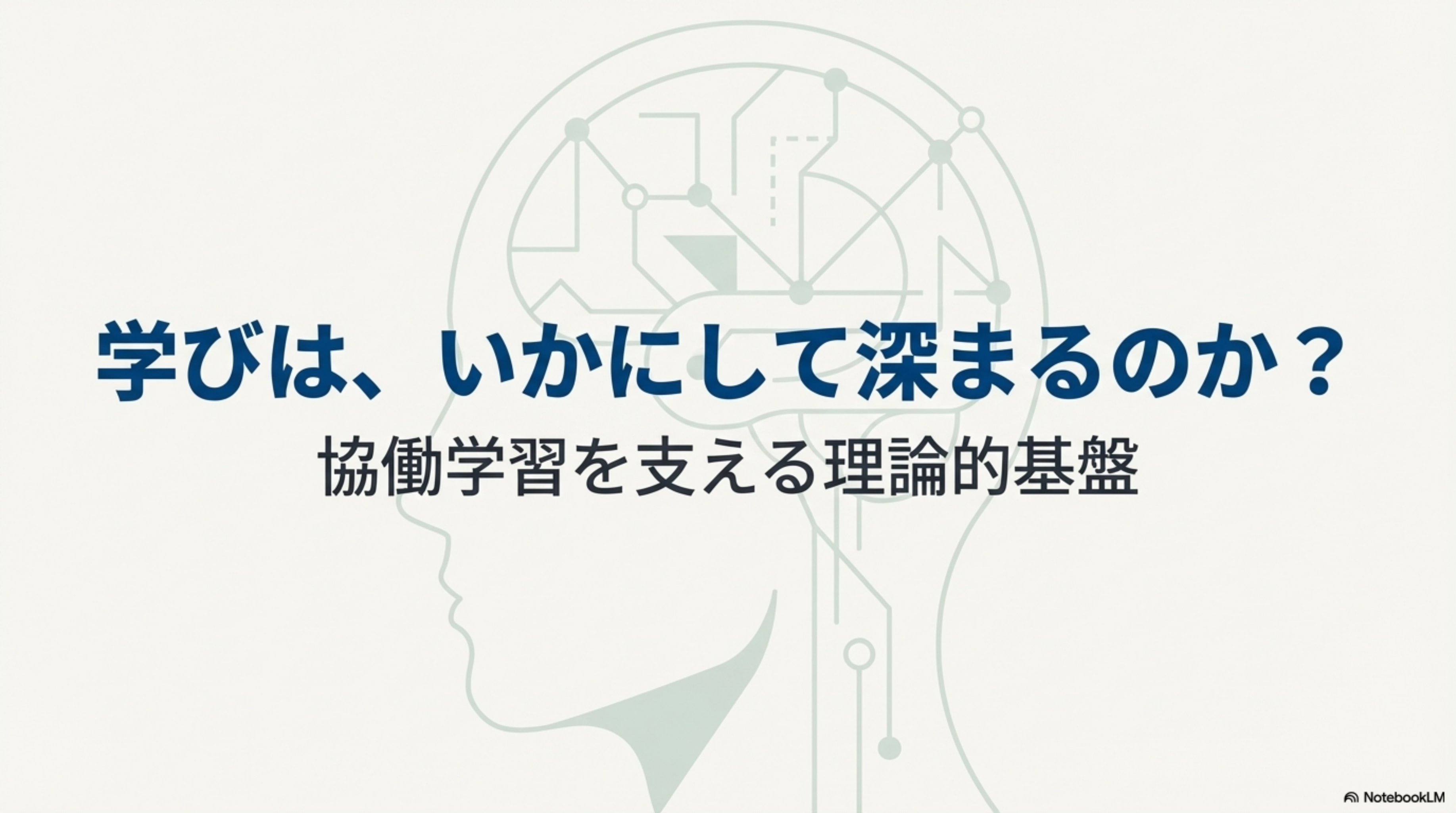
単に「問題を一緒に解く」という活動ではない。

本質的な定義



「他者がいないと起きない活動」を通じて、「一人で解くより答えの質が上がる」経験を繰り返すこと。

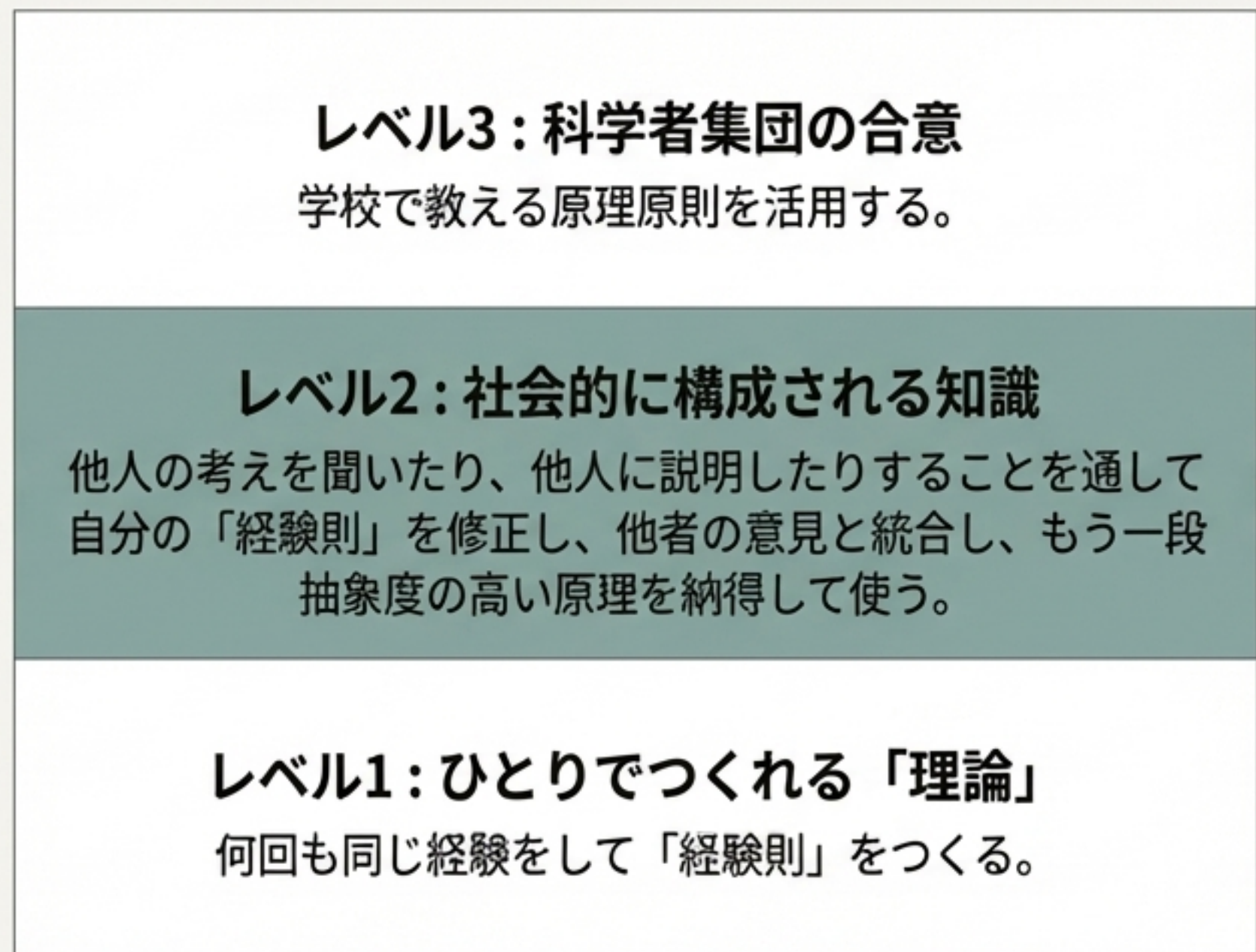
目的は、他者との関わりの中で、柔軟に課題を解決できる「使えるスキル」を育成することです。



学びは、いかにして深まるのか？

協働学習を支える理論的基盤

知識は社会的な関わりの中で生まれる：知識の社会的構成モデル



ここに協働活動が貢献

人は他者との相互作用を通じて、自身の考えを向上させ、社会的に賢くなっていきます。
この考え方は「知識の社会的構成主義」と呼ばれています。（Miyake, 2011）

「多様性」こそが、学びを深める鍵である

協働学習の成功は、一人ひとりの学びの過程や結論の「多様性」をいかに制限せず、活かすかにかかっています。

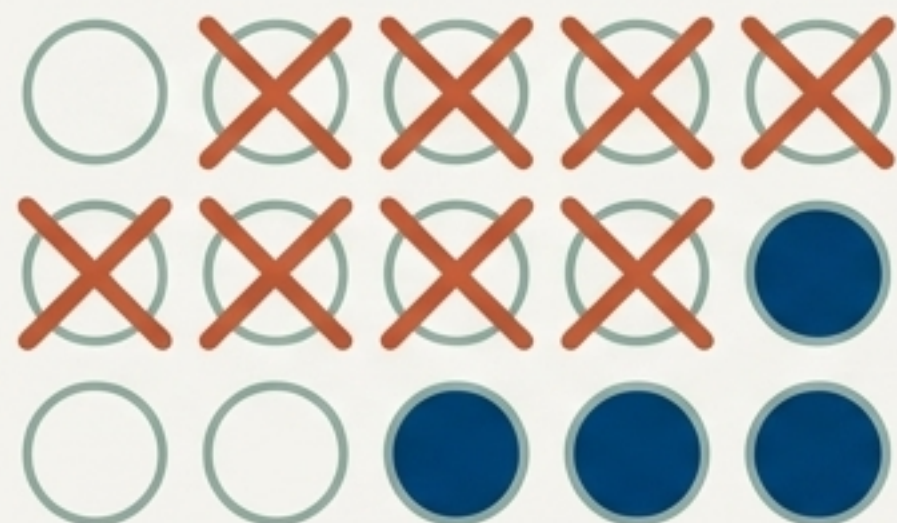
個々の多様性を認めることが、結果として一人ひとりの学習を保障することに繋がります。

例えば、小学校1年生のクラスでこの問題を解くとき...

$$13 - 9 = ?$$

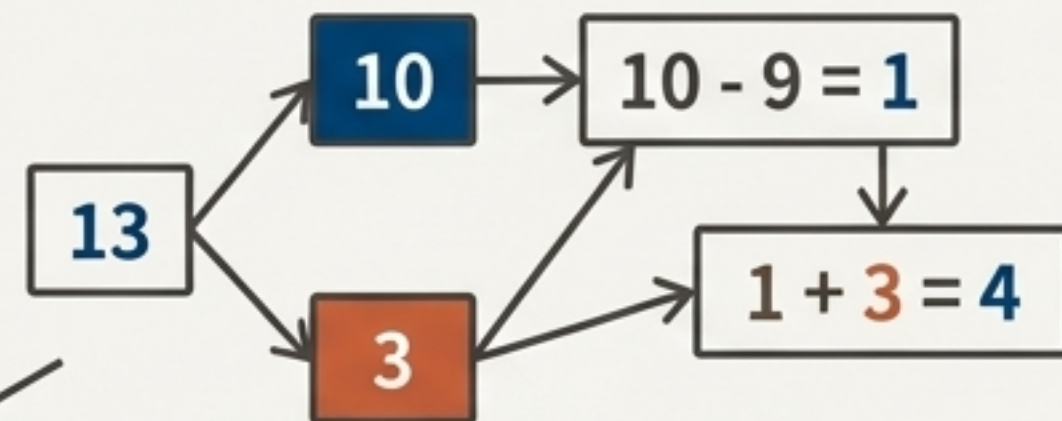
...答えは「4」ですが、その答えに至るまでの道のりは一つではありません。

一つの問い、多様な答え：13 - 9 の解法に見る思考のプロセス

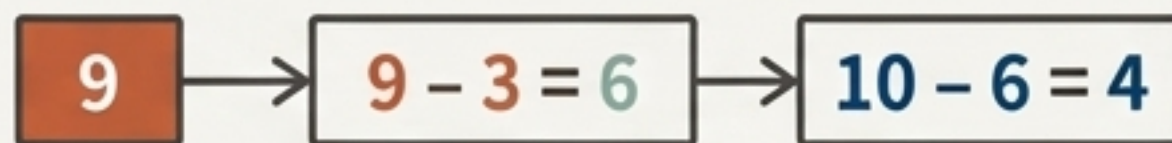


13個の○を描き、
9個を消して数える。

$$13 - 9 = 4$$



13を10と3に分け、10から9を
引いて1。残りの3を足して4。



まず9から3を引き6。
その答えを10から引いて4。

全員が同じ方法で解いているわけではない。この多様性を認識することが協働学習の第一歩となる。

明日から使えるデザイン手法

理論を実践に変えるツールキット

創造性を引き出す5つのワークショップ手法（1/2）



アイスブレイク (Icebreaker)

学習活動が円滑に行われるよう、
参加者の緊張をほぐすための活動。



ブレインストーミング (Brainstorming)

質より量を重視し、批判せずにアイ
デアを短時間でできるだけ多く引き
出す。独創的な発想の発見に繋がる。



KJ法 (KJ Method)

情報をグループで分類・構造化し、
全体像を視覚的に把握する。

学習成果を共有し、次へと繋げるワークショップ手法 (2/2)



ポスターセッション (Poster Session)

グループの学習成果をポスターに表現し発表。全員が発表者となり、同時に他の発表を主体的に聞く機会を持つ。



プランニング (Planning)

学習したことを基に、具体的な活動計画（アクションプラン）を立てる。知識を行動に移す意欲を高める。

個々の知識を統合し、より高次の理解へ：知識構成型ジグソー法

これまで教員が説明していた知識や原理を学習者に手渡し、学習者自身が統合して答えを導き出す、能動的な学びを実現する手法。



一人で考えた答えから出発し、他者との説明活動を経て、考えを統合・再構築する。

ジグソー法を構成する3つの活動

① エキスパート活動 (Expert Activity)



② ジグソー活動 (Jigsaw Activity)



③ クロストーク (Crosstalk Activity)



① エキスパート活動 (Expert Activity)

異なる視点を持つグループに分かれ、それぞれが課題解決に必要な「部品」となる知識を資料から学ぶ。

② ジグソー活動 (Jigsaw Activity)

各エキスパートグループのメンバーが一人ずつ集まり、新しい「ジグソーグループ」を形成。持ち寄った知識を組み合わせ、新たな課題を解く。

③ クロストーク (Crosstalk Activity)

各ジグソーグループの答えを全体で共有・交換。多様な解を統合し、より汎用性の高い「活用できる知識」の獲得を目指す。

テクノロジーが拓く協働学習の新たな地平

- インターネットなどのテクノロジーを活用し、遠隔地の学習者とも協働学習が可能です。
- 学習システムは、思考のプロセスを可視化・共有しやすくすることで、異なる考え方の比較を促し、学習を効果的に支援します。
- **教室の外に知識を持ち出し、実践の場で活用する機会を創出します。**



実践のためのリソースと、次の一歩

協働学習の実践と研究を支援する拠点として、東京大学に「大学発教育支援コンソーシアム推進機構（CoREF）」が設立されています。

自治体や教育委員会と連携し、小中高等学校での新しい学びの質を高めることを目指しています。

What's Available:

CoREFの公式サイトでは、協働学習の考え方に加え、授業でそのまま使える教科別の教材（指導案）が公開されています。

知識構成型ジグソー法を実践した教材も豊富です。

ぜひご活用ください。

CoREF



あなたの教室で、新しい学びをデザインしよう

1. あなたの担当教科において、協働学習が特に必要とされるのはどのような場面ですか？具体例を考えてみましょう。
2. 今日学んだ「知識構成型ジグソー法」を用いて、一つの単元の指導案を構想してみましょう。
3. CoREFの教材を参考に、あなたの生徒たちのための新しいジグソー法の教材を作成してみましょう。